

祝・完工



—滋賀大学教育学部附属 幼稚園・小学校・中学校—

滋賀がちよ
竹内久次郎

教育は国家百年の計

我が国戦後の教育は、敗戦窮乏の中でよく民主的教育制度を整え、生徒、学生の身体をよくし、芸能、技術を育て、学力向上させた点では、まさにめざましい業績をあげ一応は成功した。けれども、教育の中心課題「新しい日本を担う人間を育成する」という点においては今一步の感がないでもない。

現在、青少年の非行問題が世間の注目と関心を集めていることからもそれはいえるのではないか。教育の目的とするところではないか。

平凡ではあるが、教育の目的とするところは、「よい日本人」「よい家庭人」「よい日本人」をつくり上げることだと思う。

そしてこのことの大事なわけを、もっと深く反省されてよいのではないか。といふのも戦前の教育が、家と国を強調して個人と世界をゆるがせにすることを誤りを犯したことに対する反対に、戦後の教育は、個人と世界の重点をおいている。

今日、国民的な課題になっている「人づくり」は、家庭ならびに社会の教育だけではなく、学童の教育が、家と国を強調して個人と世界をゆるがせにすることを誤りを犯したことに対する反対に、戦後の教育は、個人と世界の重点をおいている。



滋賀県副知事

野崎欣一郎

先ず、附属学校の完成を衷心よりお祝い申しあげます。

さて、本県教育の推進力はこの滋賀大学教育学部の中に培われているといえます。

ことに、その学生諸君が、教育者としての使命観を確立するのは、ここ附属学校における最初の教育経験を通じてのことであると聞いております。

人間が人間を育てるという仕事の尊さに感激を覚えるという純粋さを、今こそすべての教師に求められてやみません。

本県が生んだ先哲、中江藤樹先生も杉浦重剛先生もその純粋さを終生失なかつた大先輩であります。

これらの先輩の伝統を受け継ぎ、さらに本県教育の発展をもたらす力が、この堂々たる校舎の中に湧き出るものと信じております。

苦き力の躍動することを思い、ここに万全の祝意を表します。

完工を祝して



西田善一

このたび懸念の滋賀大学教育学部附属学校の建設がすべて終り、新しい教育の殿堂がお見えましたことを心からお喜び申しあげます。学んでいた児童、生徒および父兄のみなさんは申しあげるまでもなく、この建設にご努力された関係者各位のおよろこびは格別のことと存じます。

めでたく完成をみましたこの地は、古く明治時代から本県の師範学校の設置された由緒あるところで、学生の教育実習の場であるとともに、中等初等教育の理論と実践の両面で、県下の教育の源流であり、研究の中心であります。

それに加えて、建築科学の枠をあつめた中

学校、小学校、幼稚園の校舎が堂々たる威容を誇

ていることは、向かわれる本校の輝かしい将来を約束しているものと確信いたします。

この学校完成を一つの契機に、大学教育学部附属校

園としてその機能を十二分に發揮されることをお祈り申しあげます。



大津市教育長

横井正治

めながらある人がつぶやいたが、この言葉は恐らく閑

めな

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

ではなかったかと思ひます。大学の方でも段階的要件を求める所で、さういふ空氣まで来ておりましたし、そういうわけか等価交換の問題、民間の関係などいろいろ複雑な問題があつたわけですが、附屬はこの間どうな運動を進めておられたであります。この辺で移転新築の進展が一時中断した感じですね。

山崎 附属としては浜田会長はじめ関係者の方々が熱心に交渉しておられたのですが、どういうわけか等価交換の進み方がおそく感じられました。大学は大学としてのむずかしい立場がもつたのだと思います。このころは東邦県議長(参議院議員)が最も苦労して下さった時代だったといえます。

西沢 いつも浜田会長の前向きのたくましいお方に感激していました。

司会 今お聞きいたい頃なんですが、塙見さんPTAはこの状態をどうお感じでしたか。

塙見 何かこの時分は、新築移転という声が聞こえると、もう浜田会長だけがいっておられる感じでした。私が会員だったのは、浜田会長を中心とした推進部隊の幹部が会員から「今にできるようにいっておいて、一体何を言っているんだ」と思われるないようにするために、とあると考えておきました。三十六年の十月市長に就いていただいてPTA会長、学校長との話し合いがあると、市長が前向きの協力態勢をとったのを見て、思っているのですが、ここで新築移転の動きを少し変わったように思います。また大学長がすごい勢いで市長に等価交換の話を進めておられたことも覚えております。

上杉 一時、新築ではなく、移転せよというようなことがございました。学長からいわれたと思うんですけど。

日下部 そうですね。これは等価交換に関するでござつたのが一つの山のようでした。

次官の本校視察について浜田会長どうかよろしく。

浜田 それは三十七年の八月三日の夜だったと思います。県の教育委員会の佐藤会長から、要請だけして事務的な段階で停滞していたと思います。文部省が予算をつけてくれなければ話にならないという立派な出ででていたのです。この頃、内藤副次官(現参議院議員)が、じつは下野先生から片瀬先生に准縁をとつてもらって、明くる日は比叡山の観光ホテルへつて半日かかって

司会 中学校の湖光を見ますと、六六号昭和三十七年十月五日に発行しているんですが、浜田会長が附属学校の新築についてのお願いという題でPTA会員に述べておられるのですから、そのトックの見出しが「明るい見通し」でありますて、おそらく浜田会長はこのころ、そういうのを確信をおもにになっておられたんじやないかと思うのですが、文部省議で決まった時の御感想。

浜田 大蔵省の附属学校の予算の取り方を聞くと、文部省から大蔵省へ附属学校の新築について二十の学校の名前を並べて要求している。ところが大蔵省はそれを半分位の額に査定する。あとでどの学校を落とすしてどの学校を拾うか、文部、大蔵で打ち合戦をなすらしい。当時の雰囲気では、その十校の中に滋賀がはいることの自信はあったのです。そこで八月二十五日後援会の名簿をはじめて、それから九月八日三月長が寄つて後援会設立の権限を授けた次第で、PTAとしては新築は絶対実現できるという自信をもつっていたのです。そして三十五八年一月二十八日宇野代議士から非公式に内定したという通知があつたのである。

片瀬 大蔵省は苦さんのお力ぞえで相当好意的だつたと思ひます。表だって言えないが原簿を見て安心しました。

日下部 それは、三十五八年一月二十六日ですね。この日は、浜田会長、片瀬校長と私と三人で文部省へ行つたのです。文部省へ行く前に宇野代議士、西川代議士、大蔵省谷川主計官にもお会いしました。これらの方からお話をもあり、また時の県の教育長土田さんからの御配慮もあって、昔平野計画課長さんの滋賀附属の予算要求に関する書類作りのハラは決まつてました。

中学校の建築と

幼小の予算要求

西沢 明かに質問をさせてましたので、それについても事前に方策は浜田会長から全部御配慮いただいておりました。この間、教育委員会の意図的な御努力、予算要求についての御苦心がおありだったと思思います。この事はわれわれも覚えておかなければなりません。

つて作っていただきましたが、随分と学校側の意図を
より入れていただけたことに、随分と思っています。
苦勞下さった工事事業者の方々に改めて感謝し、
司会 そうやって中学校が建つ、というときに、
の見通しはどうだったのでしょうか。
浜田 学校、幼稚園の新築の文部省の方針に、
は、等価交換の約束で明確な文部省の方針がないと、
うことです。そこで三十八年七月ごろ、さかんに附い
関係者が大津市へ行って等価交換を早くしてもらら
うと実行しました。七月下旬になつて大津市と、
浦の土地以外の土地も含んで交換する、という話
いがなされて、それを大学が文部省へ出された。と
ころがそれで、文部省が承知されない。八月上旬、
大津さん、市長、代理課長、浅田総務課長、山田
課長とともに、たびたび会合を開いて話して話し合
た。またそれの人々の御尽力により等価交換の文
件を作りこなして、これをコピーピーによって、上京す
るところがござります。これが文部省が、

浜田 それは日誌を見ると十一月十六日となつてましたね。あの当時宇野代議士にいろいろ便宜はかりました。附屬から直接文部省へつて子供をとつてきました。そよする。大字だから筋を通さないつて附属を叱る。おかげで、校長先生や教頭先生ちは、大学との関係でいつも立派なつら立場におられたのですよ。

片瀬 本部もすいでん努力してくれたが会長と教頭の三人、追加を強引に貢って来た。本部からは叱られたが内藤さんや本県出身の垣谷さんのお陰で貰えたの

プールそして体育館

いってもらつたのです。
西沢 幼、小、いっしょにやつていただいくて、備品の
要求は四十万円、交付要求で三十万円、計百七十九
万円が御願り願つたのです。
上杉 小学校では普通教室の机、椅子と給食の設備等
の一部が、追加要求が通らなかつたら、今新しく実現
使用できなかつたということになります。

プールそして体育館

他にみられない継続建築に感謝を

司会 そして昨年小、幼が完成、更に建設の
ということになります。普通公立小学校ではプール一つの
造るにも大事業になるのですが本学園では、本館に続
いてプールを造つていただきまことに幸福なことだと
思つます。プールについては建設が進まつて竹内さん
の土地買収という厄介な問題がありまつたね。
杉本 ほんとうに、公立学校ではプール建設六百万

苦心を。
河井 先般文部省へ行きましたら菅野課長にお会いしました。その時非常に喜ばしいな体育館ができてありましたといつて喜んでくださいました。これは後援会の御理解のもとに杉中教頭はじめ全教官が周密な計画を立てたので、工事事務所との折衝とも短期間でうまくいき、菅生体育館ができ上がり感激しております。
司会 中学校も四百五十坪というまことにりっぱな体育館が建設されたのですが、安田校長先生御感想を。
安田 正直なところ三百六十坪（ギヤラリーなど含めて四百五十坪）フロア一百坪の体育館といってもでき上るまでは、それ程実感がなかったのですが、でき上ってみてはじめてこの大きさに驚かされました。本校規定の八百坪の体育館が八割交換をうけ算入法や

司会 この年の秋九月二十一日に中学校の起工式が挙行されたのですが、この時のようにすく片瀬先生よろしく、
片瀬 全く感觸無量でした。それまではこんなに嬉しい経験は少なかったように思います。私の一生涯忘
れ得ない感激でありました。それがと共に起工までにこぎつけてしまった方々の御苦労に感謝したい気持で一杯でした。建設が始まってからも地盤についていろいろ無理申請しましたが、大阪工事事務所の水井官、南技官(現場での監督責任者)の御苦労はいたへ
んだったと仰い�建設して、その中へ入れる備
品の要求が行なわれたのですが、文部省の管野課長も非常に好意的で、いつ要求すればよいか教えてくださいました。大学本部の方で少しところを示すは極めて少ない額でした。そこで片瀬校長、浜田氏
長、それに私三人が文部省へひつてお願ひしたのであります。この時五百十五万円、備品の最初の追加要求が認められたわけですが。

まっている面積の中へ幼、小がくるのですから、いそ
んな制約がありました。にもかかわらず本省の方から
設施協議もありました。一応正面前に幼稚園を建たせら
うかという強力な指導があつたのです。私たちには
たのですが浜田会長のお骨折りで幼・小・中一貫教育
育の場として現在の位置に建築されたわけです。小、
中には非常に御迷惑をおかけしました。
司会 中学校と同じように備品要求と追加要求に御
苦心なさったと思うのですが。

杉中 通常、滋賀附属の規模だった文部省の金額
よく出て百萬円以上とところが常識ですが、いろいろ
な経緯や過去のことによって文部省は考へて、三百三十九万円出してくださいました。それでまだしも
常識以上の配慮をしてもらつたのですが、浜田会長が
御指導を得て文部省に出向き、内藤次官方までお出
いして更に一百四十万円プラス、計一百四十万円出
していただくようになったのです。なお、今年度の経常費
経費から捻出したものと後援会のお金を出してもら
たもので、ほとんど全面備品更新に近い状態にもの

あにのい 助がしま にとにし一そジ積

司会 河井校長先生、アーチーさん、おはようございます。ただで百八十坪ないし利害関係者の御尽力に感謝したく、さうしながらも中学校よりも広いものでござる。それで今いろいろ御論理を廻らせて顶いて、内部設計といふ点で、大へん御無理を頼ったことがあります。それが集会活動も十分でござつた。すいぶんと坪数につけて、アーチーさんには、この件につきましては、御理解を頂いて下さった皆様に感謝申し上げます。

校長　それから、いよいよ本題であります。人事費を増額して、二百五十五億円を提出したのであります。これで、運営費を完全に排水場の運営費を充てます。

A black and white photograph of a traditional Japanese garden. In the center-right, a large, gnarled tree stands on a raised platform. To its left is a low wall and a gate. In the background, a building with a tiled roof is visible under a clear sky.

いっしょに予算を通すように努力しましょう、という
ことになったのです。杉本 管野さんも、あとから総辞職のことを何べん
も何べんもおっしゃいました。大勢は動いていたのですが、
すから小さくも効んで建てたという見込みはあった。
としても、予算化という時は非常に微妙なものが
あって、ちょっとタイミングがはずれたら建たなかつ
たでしょうね。浜田会長が大津市長の覚書を作つて、
ただいで上京してくださったのですが、これが二日遅
れでいた上京は、省議に間に合わなくなつて予算化されなか
つたでしよう。

杉中　お話をありましたように、中学校が前提となる。敷地の配分、経費の枠が決まっているが、三つの大きな条件となつて、年々の予算が決まつたら直ぐに手をかけるというふうになつたのですが、大学の設計案が遅れ、そこへ事務担当者が病気されたりして五ヵ月も空港があつたのです。それにもう一つは、現地の維持料が苦勞しました。結果的にみますと中学校の最初の建築がすべての基本決定の骨格になりましたし、内部設計その他の構造にしても中学の建築がもの前に見ながる。少しでもそれを参考にしえ、できれば改善したというところで非常にやりやせかつたのです。

（伊藤） いわゆる「心がけ」に対する感謝の言葉があまりにもスマートで、司会者の方に感動してもらえた。そこで、この問題に対する感謝と、いかかわいい効果をあげられるよう、利用させてもらおう。

いよいよ最後四年の運動場整備事であります。運営になりますが、ついでに開幕式上杉生どうぞ。

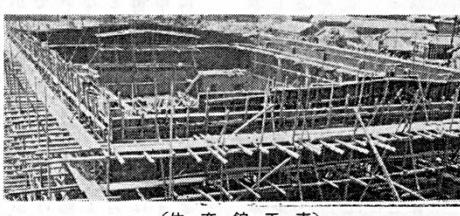
それが一億数千万円で使われるのには困る。だから学校を先にして幼稚園一年で使われるのには困る、いわゆりました。考えてみますとあの東浦の古い空屋敷、しかもも小学校が去った後、幼稚園だけが一年間残る。四歳位の子と、女の先生ばかりいるのは非常に不安なことです。そこで私は、管野課長さんに「幼稚園が切り離されるのならば、止むを得ません。その代わり、西沢先生他三人の幼稚園の先生方は三月三十一日限りで縁職解されるでしょう。先生方は県の斡旋で、どつかの新聞で「勤められるでしょう。そしたらおそらく四月の新聞には『先生のいない国立幼稚園』としで出ますよ」と冗談を言いました。そしたら管野さん

設中に小学校、幼稚園は実施設計にはいるわけですが、その時の模様を。 牧 小学校と幼稚園は二つで一つのようならんで、どこの点で、敷地をどのように配分するか。費用の点も問題になつてました。しかし全体的にみると、今てきてみて、非常に具合いよくいっているのではないかと思うのです。



(体

位置する。一度
十七年位にまで拡張され、これで最も大学での最終的の青年期が作られたのでしたが、それで最も最終決定前の七月六日の副知事室での訓教事室と浜田会長とのひとことふたことの言葉のやりとりにより瞬時にシフロー一三百点、全体で六十点十六年の設計図が完成されることになりました。私はただ茫然として副知事室を出たのを、「今でもはっきり憶えています。あの瞬間は私にどうしては一番印象深い事の一つでした。



(体 育 館 工 事)

蛙が住む運動場か

るや体育館建設の御
了。あの瞬間は私にと
て副知事室を出たの
が、大学での最終決定前の七
月一日会長とのひとこと
で進んでから二年後、即ち
四年後には、アーヴィング
・ラッシュ野球部長にお会い
した。そのときの感想は、
「うまことに、つばな
であります」と、おっしゃ
った。このときの感想は、
「うまことに、つばな
であります」と、おっしゃ
った。

